

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立六本木高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(総務部主任)=事務局長、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長(2名)、経営企画課室長、主任教諭(教務部主任)、主任教諭(生徒部主任)、主任教諭(進路部主任)、主幹教諭(総務部主任)、主幹教諭(相談部主任) 計9名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者、近隣地区商店街理事、近隣中学校長、近隣小学校長、元都立高等学校校長、元東京都高等学校PTA 計6名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月27日（金）内部委員9名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月28日（金）内部委員9名、協議委員5名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和8年2月6日（金）内部委員9名、協議委員4名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年11月28日（金）内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和8年2月6日（金）内部委員2名、協議委員2名
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 実施期間 令和7年12月12日(金)～令和8年1月7日(水)
- (2) 評価方法 Microsoft Forms による回答
- (3) 評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の3観点
- (4) 評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設、行事
ICT、ライフワークバランス
- (5) 対象者及び回答率
 - ・生徒 対象者：605人 回答者：364人 回答率：60%
 - ・保護者 対象者：605人 回答者：98人 回答率：16%
 - ・教職員 対象者：52人 回答者：52人 回答率：100%

(6) 評価結果（総計）

- ・生徒 十分当てはまる 42% やや当てはまる 43% あまり当てはまらない 12% 全く当てはまらない 3%
- ・保護者 十分当てはまる 29% やや当てはまる 38% あまり当てはまらない 10% 全く当てはまらない 1% 分からない 22%
- ・教職員 十分当てはまる 43% やや当てはまる 41% あまり当てはまらない 13% 全く当てはまらない 3%

(7) 主な意見・要望等

<生徒>

- ・ホームルームや集会（集団活動）に苦手意識を持っている生徒への対応を強化して欲しい。
- ・学習ペースや理解度に差があるため、少人数授業を導入して欲しい。
- ・授業の持ち物などを掲示板ではなく、Teamsなどを活用して、できるだけ早く知らせて欲しい。
- ・オンライン授業を自宅で受けられるようにして欲しい。授業
- ・トイレを綺麗にして欲しい。（複数回答）

<保護者>

- ・親同士の交流の場がない。保護者同士でつながれる機会があるとよい。
- ・デジタル化を進めて、オンライン授業を配信して欲しい。
- ・進路に関してもう少し相談する時間を設けて欲しい。生徒に合った進路の助言をお願いしたい。
- ・学習成果発表会の様子をもっと保護者にも知らせて欲しい。動画をClassiで公開するなど。
- ・夏の熱中症防止のために、もう少し冷房を効かせて欲しい。

<教職員>

- ・三部制という厳しい環境下で、先生方は熱心に努力をされていると思う。
- ・先生方が連携、協力し合って、生徒により良い教育環境を提供していると思う。
- ・校長先生を中心とした先生方の熱心な御指導に深く敬意を表します。

(8) 学校評価結果の分析と教育活動の改善方針

○質問 六本木高校は先生やスクールカウンセラー、YSWに気軽に相談できる環境が整っている。

- ・令和7年度学校経営計画の中心的な目標である。
- ・SC、YSWへの相談件数は、増加傾向にある。
- ・生徒及び保護者から肯定的な評価を8割以上得ている。
- ・早期の情報共有及び迅速な対応により、自死及び自死未遂のケースは挙がっていない。

▶ 令和8年度も教育相談を本校の学校経営の基盤として位置付け、その機能を維持していく。

○質問 六本木生は、デジタル端末を活用することができている。

- ・「新たな教育のスタイル研究校」「デジタルを活用したこれからの学びパイロット校」の指定

→ 令和8年度も継続

- ・各教室にデジタルカメラや電子黒板を配備
- ・授業においてデジタル機器が普及したが、効果的な活用という点で、課題が残る。

▶ 令和8年度はデジタル環境の整備を基に、機器の活用方法について深化を図っていく。

○質問 教材や教え方が工夫されていて、授業は分かりやすい。

○質問 六本木生は、授業準備を整え、目標をもって学習に取り組んでいる。

- ・生徒は教職員に対して、より分かりやすい教授方法を求めている。

→ 組織的な指導方法の改善

- ・教職員は、生徒の学習目標が明確でないと感じている。

→ 入学当初から生徒の進路（進学・就職）に応じた指導を実践

▶ 「授業のユニバーサルデザイン化」により、誰にとっても分かりやすい授業をさらに進めていく。

▶ 生徒の進路を見据え、一人一人の能力や希望、特性などに応じた指導を展開していく。